

も・み・じ

108



発行：放送大学福島学習センター
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<https://www.ouj.ac.jp>

—もみじの由来—

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要!

お知らせ



◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

【システムWAKABA】

<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

【福島学習センターウェブサイト】

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

◆年末年始及び月曜日・祝日以外の学習センター閉所日について

(2023年度から、いわきサテライトスペースの閉所日は祝日等以外、月・火曜日となりました)

12月29日(日)～1月5日(日)・1月14日(火)

あわせて『利用の手引き』(福島学習センターウェブサイトのトップページからダウンロードできます)の日程表もご確認ください。

◆図書・視聴学習室からのお知らせ

単位認定試験の実施に伴い、1月7日(火)～1月26日(日)まで図書の館外貸出を停止します。

◆次学期に向けての手続きについて

- ・次学期も学籍が続く方は、**2月13日(木)～2月27日(木)【必着】**の期間内に科目登録申請票(システムWAKABA申請可 **2月13日(木)～2月28日(金)**)を郵送してください。
- ・今学期学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方、再試験を受ける方は、**2月28日(金)【第1回】、3月11日(火)【第2回】【必着】**まで継続入学出願票(システムWAKABA継続入学申請から出願可)または一般の学生募集要項の出願票を郵送してください。
- ・上記の手続きについては、学生募集要項及び学生生活の葉も、必ずご確認ください。

◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について

配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイトを参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html>

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



ネロのお祖父さんと水島を知っていますか

高田 英和

「ウクライナ戦争」の終わりは、いつなのでしょう。今もまだ、続いています。

「戦争」に関して言えば、イギリスの歴史学者のダニエル・ピック (Daniel Pick) は『戦争の機械』(原題: *War Machine: the Rationalisation of Slaughter in the Modern Age*, 出版年: 1993年) という本において、その副題——近代における殺戮の合理化——が示しているように、近代の戦争においては人間の死(虐殺)は正当化されてきたことを批判的に指摘しています。

文学と戦争に観点をしぼってみると、たとえば、イギリス文学には、ウィーダの『フランダースの犬』(1872年)という児童文学があり(日本においても1970年代にアニメーションが放映され多くの人びとの記憶に残っていることでしょう)、その登場人物の一人、ネロのお祖父さんは、ベルギー独立運動(戦争)にかかわりますが、そこで負傷し身体(足)に障がいを被り、そのような状態でその後の人生を過ごすこととなります。(ちなみに、お祖父さんは、最後は寝たきりの状態で臨終を迎えます。)その生活は(みなさんをご存知のように)幼いネロと年老いたパトラッシュの力を借りて日々牛乳を集荷し細々と暮らすという非常に貧しいものです。国のために戦った結果が、この始末です。何とも言えません。



(“Nello and Patrasche” from Ouida, *A Dog of Flanders and Other Stories*, Chapman and Hall, 1872, [between 14-15].)

あるいは、日本を代表する児童文学で1948年に出版された『ビルマの豎琴』(これも二回ほど映画化され人気を博しみなさんもよく知っているでしょう)を書いた作者の竹山道雄は、この「あとがき」において、教え子たちが「学徒出陣」により戦場に送り出されたことについて言及しています。戦争の意義は何に何処にあるのかと、ある意味、この小説の主人公の水島上等兵は言っているのかもしれませんが。言い換えれば、「近代化」することの弊害であると断言しても良いでしょう。水島がビルマに居残るというのも、きっと、このことと関係しているにちがひありません。



(「水島上等兵」出典: 竹山道雄『ビルマの豎琴』中央公論社, 1948年, 表紙.)

人が、社会が、国が豊かになるとは、どういうことなのでしょう。われわれは今一度深く考察すべきであると、わたしはとらえています。